

2005年10月7日

第5回藤沢市30日美術館 「塚本茂展 ～油彩の輝きを謳う～」 開催について

1. 趣 旨

藤沢市30日美術館は、ここ湘南を拠点として活動する作家の作品を紹介することで、活気とうるおいのある芸術文化のまちをめざす、期間限定の美術館です。

2. 内 容

5回目となる今回は、油彩画家、塚本 茂（1903～1983）にスポットをあてます。東京美術学校（現東京芸術大学）に入学。学外では、中村彝、牧野虎雄らに師事。在学中の1924年「緑蔭」で第5回帝展初入選し、報道等で話題となります。

卒業後、1925年湘南中学（現湘南高校）美術教諭となることをきっかけに鶴沼に移り住み、以後藤沢を拠点に創作活動に打ち込むとともに、藤沢市美術家協会設立、万国美術国際会議に委員として出席するなど自身の活動のみに止まらず、多くの人々に美術の振興を呼びかけ、情熱をそそいだその一生を作品をとおして紹介するものです。

3. 主 催

藤沢市30日美術館実行委員会・藤沢市教育委員会
委員長 平本 公男（藤沢市民ギャラリー運営協議会委員）
委 員 佐藤 和彦（陶芸家）
" 新田 雅秀（県立湘南高校美術教諭）
" 水沢 勉（神奈川県立近代美術館企画課長）
" 宮原 青子（画家）

4. 会 場

藤沢市民ギャラリー（藤沢ルミネプラザ6階）
常設展示室（168㎡）

5. 会 期

2005年10月4日（火）～11月6日（日）
午前10時～午後7時（日曜日は、午後5時まで）月曜休館

6. 入 場 料

無 料

7. 展 示 内 容

油彩画26点・スケッチブック10冊・関係資料

8 . 開催経過

	タイトル	開催日時	ジャンル	出品者	入場者数	実行委員会	内容
第1回 (H13)	ふじさわ・今日の作家展	2001.12.11～ 2002.1.20	絵画 彫刻 陶芸	大木啓義・大庭京子 川口シノブ・小玉政美・猿渡隆 加山哲也・廣田徹 賛助出品：片岡球子・絹谷幸二・山本正道	4,247人	石井 行・菊地彰子 小林信子・佐田 実 杉村明子・関根秀俊 平本公男・松本信子 森川貢太郎・矢田健爾	藤沢市美術家協会から有志を募り、選出された5名と、実行委員の推薦による2名による展示。
第2回 (H14)	荒木 襄太郎展 ～知られざる画家の詩想・ その静謐なる宇宙～	2003.2.14～3.20	油彩画	荒木 襄太郎	5,006人	加賀優記子・唐木信允 平本公男・松本信子 水沢 勉	地元でもほとんど無名の画家であったが、清潔さと静謐さにあふれる独自の画風が好評を博した。
第3回 (H15)	新しい日本画への挑戦 上田 臥牛展 ～鮮烈なる魂の軌跡～	2003.11.18～12.21	日本画	上田 臥牛	3,812人	石井 行・加賀優記子 平松敬子・平本公男 水沢 勉	中央の画壇からあえて身を引き、日本画の新しい可能性を追求した。「樹木」の代表作が特に好評。
第4回 (H16)	菅沼 五郎展 ～造型の意志・彫刻の詩～	2004.11.16～12.19	彫刻	菅沼 五郎	3,038人	石井 行・加賀優記子 猿渡 隆・平本公男 水沢 勉	朝倉文夫に師事し、自由な心と直感で対象をとらえた。藤沢で多くの弟子に愛された、反骨の彫刻家。
第5回 (H17)	塚本 茂展 ～油彩の輝きを謳う～	2005.10.4～11.6	油彩画	塚本 茂		平本公男・水沢 勉 宮原青子・佐藤和彦 新田雅秀	

* 会場は、いずれも市民ギャラリー常設展示室



「読書」1934年 150号F 油彩

油彩の輝きを謳う

塚本 茂 展

SHIGERU TSUKAMOTO EXHIBITION
- The shine of the oil painting is expressed -

2005年 10月4日(火) - 11月6日(日)

10時~19時(日曜日は17時まで) 月曜休館

藤沢市民ギャラリー 常設展示室

(JR藤沢駅ルミネプラザ6F) 入場無料

塚本茂



「成る家族」1935年



「鳥森」1927年



加題 年代不明



「少女産後」1924年



「上州の家」1919年



加題 年代不明

作品撮影：平松 社

塚本茂は1903年群馬県多野郡美土里村に生まれ、前橋中学校在学中、美術雑誌に掲載された中村彝の《エロシエンコの像》に出会い画家を志します。《上州の家》は、当時描いた作品です。

東京美術学校（現東京芸術大学）図画師範科に入学。学外では中村彝、牧野虎雄らに師事。1924年第5回帝展《緑蔭》が初入選し新聞等で報道され話題となります。

卒業後、鶴沼へ移り湘南中学（現湘南高校）美術教諭となり主に油絵を中心とした西洋絵画を指導します。教え子には山下大五郎、石川滋彦など優れた画家を輩出しています。

人物画を得意とした塚本茂ですが初期の作品には、ルノアール、セザンヌ、更には《鳥森》の作品に見られるように、内面性の追求など様々な表現方法を試みています。

1937年国際美術教育連盟（FEN）主催の万国美術教育会議に日本代表で出席。この折欧州各国を廻り制作活動を行い、レンブラント、ルーベンスらの作品に改めて感銘を受け、以降の作品には一貫して写実表現を追求している姿勢が窺えます。



模写制作中の塚本茂 ルーブル美術館・パリ

戦後の混乱期、画境は転機を迎えます。湘南中学を去り、より画業に専念します。一方、藤沢市美術家協会設立、藤沢市展の発足、自宅で門下生を指導するなど美術の振興にも力を注ぎました。

1981年念願の『塚本茂画集(上毛新聞社刊)』を出版し、全ての思いが込められたこの画集を眺めながら1983年、79才の生涯を閉じました。

第5回藤沢市30日美術館は、塚本茂の未発表作品を含む油彩画26点、スケッチブック10冊、関係資料などを展示いたします。

第5回 藤沢市30日美術館

塚本茂展 ～油彩の輝きを謳う～

会期：2005年10月4日(火)～11月6日(日) 10時～19時(日曜は17時まで) 月曜休館

場所：藤沢市民ギャラリー常設展示室(JR藤沢駅ルミネプラザ6F) 入場無料

主催：藤沢市教育委員会・藤沢市30日美術館実行委員会

問い合わせ：0466-23-2415 (文化推進課)

30日美術館ホームページ

<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bunka/30days>